

17	刈谷	刈谷市立かりがね小学校	モリタ マサオ 森田 真男
----	----	-------------	------------------

分科会番号	3	分科会名	社会科教育 (小学校)
-------	---	------	-------------

研究題目 関わり合いを通して、主体的に課題解決に取り組む子ども

研究要項

1 主題設定の理由

小学校学習指導要領において、社会科では「社会的事象の見方・考え方」を働かせることが重視されている。その一つに、社会的事象や人々の相互関係についてどのようなつながりがあるかを問う視点から社会的事象について調べたり、国民の生活にどのような役割を果たしているかという視点から関連付けて考えたりすることが求められている。本学級の児童は、授業に意欲的に取り組み、話し合う活動を通して、自分の意見を持ち、積極的に発言できる児童が多い。1学期に実践した「わたしたちの生活と自然災害」の学習では、愛知県の地形図から地形的特色と自然災害の関連性を読み取り、地形に応じてどのような自然災害が起きるのか、どのように備えることで自分や家族の命を守ることができるか前述の視点を働かせて考えることができた。以下の【資料1】は、単元を終えた児童Aの振り返りである。

どんな自然災害が起こっても命を守れるように、準備をしておくことが大切だと分かりました。これからは、山や海に行ったときでも、大丈夫なように必要な荷物を持っていくことを心がけたいです。

【資料1】単元「わたしたちの生活と自然災害」を終えた児童Aの振り返り

「これからは、山や海に行ったときでも、大丈夫なように必要な荷物を持っていくことを心がけたい」から、児童Aは、地形に応じた防災対策があり、今後も自然災害から命を守ることを考えて行動しようという意欲が見られた。しかし、自然災害という有事のことだけでなく、他の単元でも社会的事象や人々の相互関係を問う視点を児童がもち続けられるようにしたいと考えた。そこで、社会的事象について自分の生活と関連付けて考えることで、求められる姿により近づく可能性を感じ、本主題「仲間と関わり合いながら、自分の生活と結び付けて社会的事象を考える子どもの育成」を設定した。

2 目指す子ども像

(1) 仲間と関わり合いながら考える子ども

資料から得た知識や情報をもとに自分の意見を持ち、仲間の意見を得ることで、考える視点を変えたり、増やしたりして、自分の意見を再構築する姿。

(2) 自分の生活と結び付けて社会的事象を考える子ども

社会的事象に対して、「どのようなつながりがあるのだろう」「どのような役割を果たしているのだろう」と疑問をもち、自分の生活との関連を見つけようとする姿。

3 単元計画

(1) 研究の仮説と手だて

目指す子ども像に迫るために、次のような仮説を立て、研究を進めることにした。

【仮説1】社会科単元「工業を支える運輸と貿易」において、話し合いや意見を共有する場を設定すれば、仲間と関わり合いながら考えることができるだろう。

<手だて①> グループトーク

自分の意見を発表することができ、話し合い活動を楽しんでいると感じているという児童のよさを生かすため、意見を伝え合ったり、資料から情報を集めたりする活動を通して仲間と関わり合う場を設定する。仲間の意見を得ることで、考える視点を変えたり、増やしたりして、自分の意見を再構築できるようにする。

<手だて②> 振り返りの活用

授業を通して考えた自分の意見を再構築できるように、毎時間振り返りを書くことで、自分の考えを広げたり、新たな問いを立てたりできるようにする。振り返りの場を設けるときは、教師から視点を与えることで、児童が思ったことやこれから考えたいことを自分の言葉で書けるようにする。また、その振り返りを発表し、学級全体で共有することで、仲間の意見に関わる場を設定するとともに、仲間の考えから新たな問いを立てられるようにする。また、授業のはじめに、教師が抽出した前時の振り返りを発表することで、本時の見通しを

もたせる。振り返りの共有を毎時間行うことで、仲間の振り返りから気付いたことを次時につなげ、仲間と関わり合いながら自分の意見をもつことができるようにする。

【仮説2】 社会科単元「工業を支える運輸と貿易」において、児童にとって身近な教材を資料として取り入れれば、自分の生活と結び付けて社会的事象を考えることができるだろう。

＜手だて③＞貿易に関する資料提示の工夫

児童が工業製品の輸送を自分の生活と結び付けて考えられるように、統計資料や地図だけでなく、身近な愛知県内の貿易港の資料を教材とする。名古屋港管理組合が公開しているグラフや動画を資料として提示する。また、資料を提示するときには、児童が考える視点をもてるように、あえて少ない言葉で発問したり、補助発問をしたりすることで工業生産と輸送の関係に迫れるようにする。児童が「どのようなつながりがあるのだろう」「どのような役割を果たしているのだろう」と自分の生活の身の回りにある工業製品も輸送されて届くことや、働く人のおかげで自分の生活も支えられていることに気付けるようにする。

＜手だて④＞防災備蓄倉庫の見学

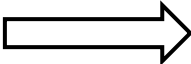
工業製品を輸送するためのコンテナは子どもにとって身近とはいえないが、本校にある防災備蓄倉庫をコンテナの一種として見学することで、コンテナの利点を見つけることができると考えた。屋外にある防災倉庫を実際に触ったり、中の物の状態を見ながら見学したりすることで、頑丈さや防水性の高さに気付き、自分の生活に関わるさまざまな物がコンテナによって安全に輸送されていることに注目できるようにする。

(2) 教材について

本研究では、単元の後半から輸送手段としてのコンテナと、コンテナ港で働く人々を教材として扱った。コンテナは「20 世紀最大の発明品の一つ」と呼ばれ、発明以前の荷物運搬方法よりも格段に効率よく、多岐にわたる輸送品を積載することができる優れた機能性をもっている。コンテナの利点を調べたり、コンテナ輸送現場の動画を視聴したりすることで、児童がコンテナの機能性の高さを実感できるようにする。また、名古屋港のコンテナ港で働く人に焦点を当てることで、工業製品の輸送と自分の生活を結び付けられるようにする。具体的には、コンテナを運ぶガントリークレーンを操作する作業員（以下、ガンマン）の動画を視聴することで、コンテナを扱う技術や仕事への思いを知り、ガンマンの役割によって自分の生活も支えられていることに気付けるようにする。

(3) 抽出児 A について

○自分の考えをきちんとまとめることができ、探究心が強い。
▲社会的事象と自分の生活との関わりへの関心が薄い。



＜本単元を通して願う姿＞
仲間との関わり合いを通して、自分の生活と結び付けて社会的事象について考えようとする姿

(4) 指導計画（6 時間完了）

段階	学習内容	手だて	
出会う	○日本の工業がさかんな理由について、輸送の視点から予想する。①② 工業製品がどこからどのように運ばれるのか知りたい。	手だて③ 名古屋港の輸入品目内訳グラフ 手だて① 輸入品を考えるグループトーク	手だて② 振り返りの活用
集める	海外と日本の自動車工業はどのようにつながっているのだろう。 ○輸入相手国の位置を調べる。③ 遠い国からどうやって工業製品を運んでいるのだろう。 ○工業製品を運ぶコンテナの特色について話し合う。④ コンテナはどうやって海外から運ばれるのだろう。 ○コンテナを使って、どのように物が運ばれるのか調べる。⑤ ガンマンはどんな思いでコンテナを運んでいるのだろう。	手だて① 輸入相手国を調べるグループトーク 手だて③ 貿易に関する統計資料、白地図の活用 手だて④ 防災備蓄倉庫の見学 手だて① 部品を運ぶ過程を考えるグループトーク 手だて③ 名古屋港ガンマンの動画	
深める	○物を運ぶ人たちの願いを知り、学んだことをまとめよう。⑥ コンテナやガンマンのおかげで自分たちの生活は支えられているんだ。	手だて③ 名古屋港ガンマンの動画	

4 実践と考察

(1) 海外に輸出することで工業がさかんになったことに気付いた児童A（手だて②、③）

9月にトヨタ車体工場を見学した児童は、各地の関連工場で作られた部品がトヨタ車体工場に運ばれ、組み立てられて出荷されることを理解できた。さらに、自動車をはじめとする工業製品は運ばれて届く（＝輸送）という視点にも注目できるようにしたいと考え、世界の工業生産に関する統計資料をもとに、日本の工業生産の実態に迫りながら、輸送の視点に導くこととした。第1時のはじめに、児童に対し「日本の工業は世界から見てもさかんだと思うか」と問いかけると、児童Aを含む半数以上が「さかん」と予想した。理由を尋ねると、「日本はたくさん自動車をつくっていて、自動車産業がさかんだったから」と多くの児童が考えた。そこで、児童が日本の工業と海外のつながりの視点をもてるように、教師から「愛知県で自動車産業がさかんなことは分かったが、だからといって日本も世界から見て工業がさかんな国といえるのか」と発問することで揺さぶりをかけ、キッズ外務省が公開する「工業生産に関する世界ランキング」を提示した。ランキングは、自動車の輸出台数・タイヤの生産量・産業用ロボットの稼働台数・造船竣工量の多い国をそれぞれ示しており、日本はすべてのランキングにおいて上位三位以内に位置付けられていた

【資料2】この統計資料から、S1は「やっぱり日本は世界から見ても、工業生産のさかんな国」と発言し、児童Aも頷く様子が見られ、予想が合っていることを確認できた【資料3】。さらに工業がさかんなことを輸送との関係に気付くことを期待し、教師から「工業製品をつくるだけで、日本の工業はさかんになったのか」と再び揺さぶりをかける発問をした。児童Aは、工業製品を「海外に輸出して、車を売っていると思う」と発言し、海外との貿易関係に視点を向けた。また、「売らないと意味ない」と発言し、自動車をつくるだけでは、自動車産業がさかんにならないと考えた。

第1時を終えた児童Aは、振り返りに「海外で日本の車が売れるから」と記述し、自動車を海外へ売ることや輸送の視点についての記述があり、工業製品を作るだけでなく、海外に輸出することで、日本の工業がさかんになったことに気付くことができた【資料4】。しかし、工業製品の輸送と自分の生活との結び付きを考えるような様子は見られなかった。

(2) 海外との貿易が日本の工業を支えていることに気付いた児童A（手だて①、②、③）

日本の工業がさかんだと考えた児童が身の回りの工業製品の輸送と自分の生活を結び付けられることを期待し、第2時は日本に運ばれる輸入品にはどのようなものがあるのか考えられるように、名古屋港に運ばれる輸入品目の内訳グラフを提示した【資料5】。グラフの「その他」に自動車部品があることに児童が気付いたところで、海外とのつながりが自動車産業を支えていることに児童が注目できるように、教師から「日本で車をつくるのがさかんなら、部品も日本でつくってるんじゃないの?」と発問をして揺さぶりをかけた。児童がどのような自動車部品を輸入しているのか気になり始めたところで、自動車部品四つ（ハンドル、エンジン、ホイール、半導体）のうち輸入品はどれかを考えるグループトーク活動を行った。児童は、四人一組のグループに分かれ、輸入しているか、していないかの二択で話し合いながら予想した。児童Aと同じグループだった児童Bが「グラフの絵の中にハンドルがあるから輸入していそうだね」と資料を手掛かりに考えた意見を聞いた児童Aは、「日本には金属工業もあるからホイールは国産じゃないかな」と前単元で学習した日本の工業の特色をもとに意見を伝える姿が見られた。活動時間が終わると、児童Aのグループをはじめとする多くのグループが、輸入しているものにハンドルと半導体を、輸入していないものにエンジンとホイールを挙げた。そこで、児童に四つすべて輸入品を扱っていることがあると伝え、驚く反応が見られた。児童Aは、「えー、日本の車は有名なのに」とつぶやいた。輸入品がたくさんあることで起こりうる事態について児童が考えられることを期待し、教師から「これだけの輸入品がもし届かなかったら?」と問いかけ、「車が



【資料2】世界ランキングの一部
(出典：キッズ外務省)

S1: やっぱ日本は世界から見ても、工業生産のさかんな国。

T: 工業製品を作るだけで、日本の工業はさかんになったのかな。

S1: 昔から車をつくっていて、技術がどんどん進歩したから。

A: 海外と交流しているからだと思う。

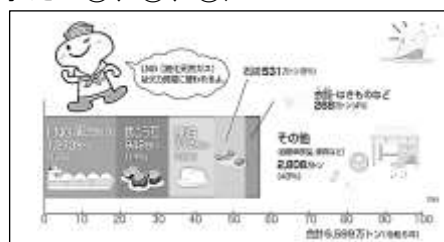
T: 海外とどう交流しているの?

A: 日本だけでなく、海外に輸出して、車を売っていると思う。つくるだけでなく、売らないと意味ないから。

【資料3】第1時の様子

全部三位以内に入っているから日本の工業は、世界から見てもさかんで、すごいと思いました。つくるだけでなく、海外に売ったりして、海外で日本の車が売れるから、もうかって、さかんになると思いました。

【資料4】第1時の児童Aの振り返り



【資料5】輸入品目の内訳グラフ
(出典：名古屋港管理組合)

つくれない」と答えた児童がいたところで、振り返りの場を設けた。

第2時を終えた児童Aは振り返りに「外国との関係が切れてしまったら」と記述し、海外とのつながりが切れることを危惧している【資料6】。また「車のつくれる早さが遅くなって、運輸にも時間がかかり、とてもつくるのが遅くなって、大変になり、日本だけでがんばらないといけない」と記述し、日本の工業が海外との貿易関係によって成り立っていることに気付き、国内の生産だけでは、現状の工業生産を維持できないと考えた。さらに「日本もどんどん不安定になるかもしれない」という記述から、運輸による影響は日本の工業全体に影響を及ぼすことを示唆している。児童Aは、仲間とともに予想する活動を通して、海外との貿易関係から工業製品の輸送の重要性を考え、日本の工業を支えていることに気付いた様子が見られた。

（3）仲間と地図をつくる活動を通して、新たな問いを立てた児童A（手だて①、②、③）

これまでの学習活動を終え、これから工業生産を支える運輸について知りたいこととして、多くの児童が「輸入品はどこから運ばれるのか」「輸入品はどうやって運ばれるのか」の二点を挙げた。そこで、第3時の輸入相手国を調べる活動では、仲間と関わり合いながら協力して課題に取り組むために、グループ内で役割分担をして、統計資料から情報を集めたり、相手国の位置を地図から見つけたりする作業学習を取り入れた。まず、第2時に扱った【資料5】の輸入品目名を地図帳の世界各国の統計資料「日本への輸出」の項目から見つけ、日本と貿易関係にある国を調べた。次に、調べた国の位置を地図帳から見つけ、白地図に輸入相手国から日本へ向かう矢印線を書き込んだ。完成した地図【資料7】から「アジア州から多く運ばれてる」と児童たちは考え、貿易関係にある国の位置を理解することができた。児童Aは、「どうやって船で重い物を運んでいるのだろう」と新たな問いを立てる様子が見られた【資料8】。

（グループの）みんなと予想したときは、輸入している部品は少しだと思っていたけど、四つ全部でびっくりしました。もし外国との関係が切れてしまったら、車をつくれる早さが遅くなって、運輸にも時間がかかり、とてもつくるのが遅くなって、大変になり、日本だけでがんばらないといけないから、外国と関係が切れたら日本もどんどん不安定になるかもしれないと思いました。

【資料6】第2時の児童Aの振り返り



【資料7】第3時で作成した地図

思っていたより、たくさんの国から輸入していると思いました。自動車の部品は重い物もあると思うけど、どうやって船で運んでいるのだろうと思いました。

【資料8】第3時の児童Aの振り返り

（4）防災備蓄倉庫から輸送におけるコンテナの役割を見つけようとする児童A（手だて②、④）

前時で児童Aが立てた「どうやって船で重い物を運んでいるのだろう」という工業製品の輸送に関する問いから、第4時ではコンテナを教材として取り上げることとした。また、自分の生活を結び付けて考えられるようにするために、本校敷地内にある防災備蓄倉庫を海上輸送に使用するコンテナの一種として扱った。授業のはじめに、児童Aの前時の振り返りを学級全体に共有し、「どのような船で輸送品を運んでいるのだろう」と問いかけ、コンテナ船の写真を提示した。児童の中にはコンテナを知らない児童もいたため、見た目から気付くことを発表させた。「四角い形」「金属っぽい」と児童が発言したところで、「コンテナは20世紀最大の発明品の一つ」と呼ばれていることを紹介した。それを聞いた児童がコンテナのすごさを探ろうとしたところで、防災備蓄倉庫の見学に出かけた。倉庫内の物の状態を見て、「物がぎゅうぎゅうに積んであるね」と発言し、多くの防災グッズが収容されていることを確かめた。さらに、「濡れたら使うとき困るね」と発言し、防災グッズが濡れたり劣化したりしていないことに着目することができた【資料9】。さらに、外壁を実際に触ったり、手をグーにしていたたり、外壁の硬さを確かめる様子が見られた。



【資料9】防災備蓄倉庫の中を確認する児童A

第4時を終えた児童Aは、振り返りに「硬くて、めちゃくちゃ大きくて」とコンテナを実際に見学したことで得られた実感を示す記述が見られた【資料10】。また、「もし、船で長い間、海の上で雨が降っても大丈夫だから」とあり、防災備蓄倉庫の防水性を、コンテナ船での海上輸送に発展させて考えている。さらに、「安心して荷物を運べる」とあり、輸入品が出荷先に届くために安全に運ばれることと、コンテナの防水性を関連させて考える記述が見られた。工業製品の輸送を自分の生活に結び付ける直接的な記述はないものの、防災備蓄倉庫の見学を通して、コンテナの役割を海上輸送に結び付けることができた。

コンテナは、硬くて、めちゃくちゃ大きくて、どんなものでも入るかと思いました。コンテナは雨がふっても中がぬれないから、もし、船で長い間、海の上で雨が降っても大丈夫だから安心して荷物を運べると思いました。

【資料10】第4時の児童Aの振り返り

(5) 仲間と関わり合いながら意見を再構築した児童A（手だて①、②、③）

防災備蓄倉庫の見学から、児童が重い物を一度にたくさん運べるコンテナの利点を理解できたところで、工業製品の輸送と自分の生活に関連させて考えられるように、工業輸送に携わる人に焦点を当て、愛知県内の貿易港で働くガンマンの仕事ぶりを取り上げた。第5時では、コンテナ船が到着する港から部品工場に輸入品が届けられるまでの過程をグループで話し合い、ホワイトボードに道筋をまとめるグループトークを行った。児童Aは「キリンみたいなクレーンを見たことがある」とこれまでに見た光景を思い出しながら発言した。仲間と関わり合うことで、工業製品の輸送と自分の生活の中で見たことのある場面を思い出し、話し合いに役立てる姿が見られた【資料11】。



【資料11】グループトークの様子

どのグループもコンテナを船から降ろすクレーンがあることを予想した。児童Aのように、「名前の分からない」クレーンと考える児童がほとんどで、クレーンに対する興味がわいた様子だった。そこで、このクレーンに焦点を当て、船からコンテナを降ろす名古屋港のガンマンに関する動画を視聴した。動画は、コンテナ置き場から一つのコンテナをトラックに積むまでを1分17秒でこなす様子を映し、ガンマンの仕事ぶりや技術の高さを提示した【資料12】。動画を見た児童Aはガンマンの仕事ぶりについて「微調整しながら荷物を降ろしていた」と発言した。児童Aの考えをさらに引き出したいと考え、教師から「なんで微調整してたのかな」と追発問をしたところ、「ずれると落ちちゃって下にいる人に当たったら死んじゃう」と答えた。ここでいう「下にいる人」とは、地上から無線でガンマンに連絡を取り、コンテナを積む位置を誘導する指示役のことである。動画から指示役の存在に気付いた児童Aは、コンテナをずらさないように微調整しながら積む技術によって、港で働く人の安全が守られていると考えた。



【資料12】コンテナを積む様子
(出典：名古屋港管理組合)

第5時を終えた児童Aの振り返りに「コンテナは頑丈、水に強い、何でも運べる」と記述し、コンテナの利点を考えている【資料13】。さらに「安心・安全・素早く細かいところも気を付けてコンテナをトラックに積める」と記述し、ガンマンの仕事ぶりにもよさを感じている。また、「もし、ガンマンがいなかったら、どうやって運べばいいのだろう」という記述から、ガンマンの存在によって、コンテナで運ばれる輸送品が届けられており、ガンマンがいなければ工業を支えることができないと考えている。児童Aはガンマンの動画の視聴によって、ガンマンの存在という新たな視点を得たことで、工業を支えるガンマンの重要性に気付くことができた。また、グループトークや意見の共有による仲間との関わり合いを通して、コンテナを操作するクレーンの役割やコンテナを微調整しながら慎重に扱うガンマンの仕事ぶりに注目した。

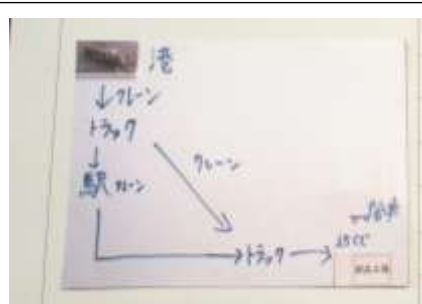
コンテナは頑丈、水に強い、何でも運べる
いろいろなよいところがあるけれど、その
コンテナを安心・安全・素早く細かいところ
も気を付けてコンテナをトラックに積める
ガンマンがすごいと思いました。コンテナを運
ぶのに港で働くガンマンの仕事はとても大事
だと思いました。もし、ガンマンがいなかつ
たら、どうやって運べばいいのだろうと思
いました。

【資料13】第5時の児童Aの振り返り

(6) 物を運ぶ人たちの願いを知り、学んだことをまとめた児童A（手だて②、③）

ガンマンの存在と技術の高さを知った児童Aは、視聴した動画に興味をもち、ガンマンのことを知りたいという意欲を高めていた。児童Aが港で働くガンマンの思いに迫れるように、第6時では、新たな動画を見せた。動画に登場するガンマンは、「お客さんの大切な荷物を安全に届けられるように、また、一緒に働くガンマンが怪我をしないように心掛けている」と語った。第5時で児童Aが考えた下の人に当たらないようにクレーンを操作していることと、ガンマンの重要性に関する言葉が語られたことで、児童Aは満足した様子だった。お客さんのことを考えるガンマンの思いを知った児童Aが、さらに働く人の視点をもてることをねらい、教師から「安全に運ぶなら、なぜ1分17秒という短時間で作業しているの?」と問いかけた。これに対し児童Aは、

「荷物を待っているお客さんがいるから遅らせないように」と発言し、コンテナに積載された荷物それぞれにお客さんがいることを挙げ、ガンマンの話にあった「お客さんの大切な荷物を安全に届けられるように」という考えに結び付けることができた。



【資料14】児童Aのワークシート(左)

この授業で、ガンマンがお客さんのために
1日に何百個もコンテナを操作してくれてい
ることが分かりました。ガンマンのおかげで
自動車の部品とかが届いて、自動車ができる
からありがたいと思いました。どこか途中
で途切れたら、届かないこともあるから、運
ばれるのは、人のおかげだと思ったし、それ
を知れてよかったです。

【資料15】児童Aのワークシート(右)

物を運ぶガンマンの思いについて考えを深められたところで、単元のまとめとして、ワークシートに学んだことをまとめる活動を行った。ガンマンの存在が工業製品の輸送に関わることを読み手に伝えられるように、ワークシートの左側にコンテナ船から輸送品が工場に届くまでの過程を、右側に授業を通して考えたことをまとめられるようにした。児童Aは、左側に港から部品工場まで途切れずに書き込んでおり、道筋がつながることで輸送品がきちんと届くように考えることができた【資料14】。また、右側のまとめに「ガンマンがお客さんのために1日に何百個もコンテナを操作してくれて」「ガンマンのおかげで自動車の部品とかが届いて、自動車ができるからありがたいなと思いました」と記述し、たくさんの輸送品を扱うガンマンに感謝の気持ちを持ち、ガンマンの存在が工業輸送に欠かせないものとする考え方がうかがえる【資料15】。また、「どこか途中で途切れたら、届かないこともあるから、運ばれるのは、人のおかげだ」と記述し、お客さんの大切な荷物を安全に届けられるようにしたいというガンマンの思いを受け止めた様子が見られる。

第6時を終えた児童Aは、振り返りに「下がガラスで怖いはずなのに」と記述し、ガンマンの働く環境に言及している【資料16】。ここでいう「下がガラス」はクレーンの運転席が地上から約50mの高さにあり、コンテナを操作するために、床がガラス張りになっていることを指す【資料17】。「お客さんのために」から、難しい環境の中で働くガンマンの仕事ぶりやお客さんに物を届けようとする思いに心を動かされる様子が見られる。また、「家の車の部品もガンマンのおかげで」から、自分の生活とガンマンの働きを結び付けて考え、輸送によって生活が支えられていることに気付く姿が見られた。

ガンマンは下がガラスで怖いはずなのに、こわがらずお客さんのために働いているから、すごいと思いました。家の車の部品もガンマンのおかげで工場に運ばれたのかもしれないと思いました。

【資料16】 第6時の児童Aの振り返り



【資料17】 運転席からの景色

(出典：名古屋港管理組合)

5 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- グループトークでは、仲間の意見から新たな視点を見つけ、自分の意見を再構築する姿が見られた。特に、第5時の児童Aは、コンテナ船からコンテナを降ろして工場に運ぶまでの過程をグループで考える活動において、児童Bの意見を手掛かりに、これまで見た光景を思い出し、コンテナを運ぶためのクレーンにつなげることができた。仲間との関わり合いを通して、考える視点を増やし、自分の意見を再構築する姿が見られた。このことから、仮説1に対する手だて①は、有効であったといえる。
- 毎時間、振り返りの時間を通して、自分の考えを広げたり、新たな問いを立てたりすることができた。特に、第2時の終わりに教師から「これだけの輸入品がもし届かなかったら？」と問いかけてから振り返りの場を設けたことで、輸送によって工業が支えられているという視点をもつことができた。また、第3時から第4時にかけて、児童Aが第3時の振り返りに書いたことで、新たな問いを立てることができ、さらに、学級全体に共有したことで、仲間の意見に関わる場をもつことで、自分の意見をもつことができた。このことから、仮説1に対する手だて②は、有効であったといえる。
- 貿易に関する資料は、資料を提示するときに、あえて少ない言葉で発問することで、児童の率直な考えを引き出すことができた。また、補助発問をすることで、児童の考えを巡らせるきっかけになった。さらに、名古屋港に関する資料を活用することで、工業の輸送と自分の生活にどのようなつながりがあるのか考える視点を与えることができた。特に、第5・6時にガンマンの動画を視聴した児童Aは、働く人の視点を得ることで、安全かつ迅速に輸送するための技術の高さを実感し、自分の家の自動車の部品も運ばれたのかもしれないという自分の生活と結び付けて考える様子が見られた。このことから、仮説2に対する手だて③は、有効であったといえる。
- 防災備蓄倉庫の見学をすることで、児童はコンテナの大きさや材質を観察することができ、コンテナの役割を実感することができた。特に、第5時ではコンテナの大きさを考えながらグループトークに取り入れる様子が見られたり、第6時ではガンマンの仕事ぶりを想像できたり、自分の身の回りの工業製品もコンテナによって運ばれたものがあるかもしれないと、自分の生活と結び付けて考える姿が見られた。このことから、仮説2に対する手だて④は、有効であったといえる。

(2) 今後の課題

単元の前半において、工業製品の輸送と自分の生活を結び付けて考えることが難しいと感じた。児童Aは、海外とのつながりに興味を示すものの、自分の生活につながっているとは考えていない様子だった。海外との関係が児童の生活にもつながっているという実感をもてる教材研究を今後も模索したい。